

# 日本分光学会入会のご案内

社団法人 日本分光学会

日本分光学会は昭和26年に創立された、我が国の分光光学に関する唯一の専門学会です。分光光学は歴史の古い学問であり、あらゆる分野に関連する性格をもっています。本会は、この分光光学の基礎研究と広い応用分野にわたる学際的研究をすすめるため、会員の研究連絡ならびに啓蒙の仕事に努めています。

会誌「分光研究」は次ページに最近の内容を御紹介してありますように、会員の研究論文発表の場としてのみならず、充実した講座、わかりやすい総説・解説、日常の役に立つ分光便利帳など興味ある記事を掲載し、全会員の有効な情報源となるよう努力しています。

講習会・研究会・講演会などは、以下に一例をご紹介しましたような主題のもとに、会員のなかのエキスパート、気鋭の研究者を講師とし、活発な活動を行なっています。また「夏期セミナー」のように、自由な質疑応答を通じて単なる講演会では得られないような深い知識、有効なテクニックの習得を図る行事もあり、毎年、多数の会員の参加を得ています。さらに全国にわたる地方支部では、支部独自の講演会、見学会などを開催し、地方会員の便宜をはかっています。

このほか、他の学協会と多くの行事を共同で行い、本会以外の行事に参加することも可能です。以上のように、本会は研究発表・研究連絡の場と、確実な基礎知識・信頼できる最新の情報を会員に提供するよう努めています。

是非御入会下さるようおすすめいたします。なお、学生の皆様には、軽い負担で入会し活動していただくために、年会費を2000円と低額に設定しています。

- 会費年額（前納制、但し入会金不要）正会員 7,600円 学生会員 2,000円  
シニア会員（満60歳以上で、職についていない方） 3,000円  
公共会員 12,000円 特別会員 19,000円 賛助会員 1口 26,000円（1口以上）

○会誌は会費納入次第お送りします。

○会誌は入会年度に発行される巻の1号～6号をお送りします（例えば平成18年度に入会すれば、第55巻1号から6号まで）。

◎入会手続 以下の申込書に所要事項をご記入の上、FAX、郵送またはE-mailにて下記までお送り下さい。会員名簿には太枠内のみを掲載しますが、会員種別、通信先、生年月日は必ず記入下さい。

〒101-0047 東京都千代田区内神田一丁目11-6  
大丸アネックス2階  
社団法人 日本分光学会

電話 03-3291-5221 FAX 03-3291-5228

E-mail members@bunkou.or.jp 又は bunko-jimu@mbm.nifty.com

郵便振替貯金口座 00150-3-173303

## 日本分光学会 入会申込書

会員番号※  氏名：  ローマ字：	(必ずご記入下さい)  入会 平成 年度 会員種別： 正 学生 通信： 勤務先 自宅 年 月 日生まれ (西暦)
最終学歴： (学位) 卒業年あるいは修了年：	
勤務先： 所 在：〒  電 話： F A X：	
自 宅：〒  電 話： F A X：	
E - mail：	
紹介者(正会員)氏名： 会員番号： 紹介者所属：	
専門分野： 他の所属学会： 関心のある部会の番号に○印： 1. NMR分光部会 2. ナノ分光部会 3. 高分解能分子分光部会 4. 生細胞分光部会 5. 高感度表面・界面分光部会 6. 赤外・ラマン分光部会 7. 先端レーザー分光部会 8. 近赤外分光部会 9. テラヘルツ分光部会	
受付※ 承認※  通知※	

注) 紹介者がいない場合は分光学会まで御連絡ください。

※印は本会記入/会員名簿には太枠内掲載

# 社団法人 日本分光学会 専門部会活動の紹介

## NMR分光部会

代表: 児嶋長次郎(奈良先端大)

NMRは現在、化学・生物・医学領域から材料・コンピュータ領域にわたる広い分野で用いられています。本部会では、企業研究者の積極的な参加を求め、様々なバックグラウンドを持つ新規ユーザー間の情報交換を促進し、新規な方法論の創造に繋がる場を提供することで、分光光学におけるNMRおよびその応用分野の振興を図ることを目的としています。

## ナノ分光部会

代表: 早澤 紀彦(理研)

ナノテクノロジー研究の進展とともに、ナノ材料、ナノ計測、ナノ機能などの新たな研究分野が創出されています。1分子ともバルクとも異なるナノスケールにおける諸現象を理解するために、本部会では微小領域における分光光学に関連した科学、装置、材料及びそれらの応用等について議論する場を提供し、分光光学と顕微光学を融合した研究領域の発展に寄与することを目的としています。これらのナノ計測・制御技術は今後さらに重要になり、既成の学問領域を超えた学際的な議論が必要になると考えられます。そこで本部会では、「ナノ」と「分光」に関する講習会などを企画し、顕微分光に興味を持つ若手研究者の育成や顕微領域における分光光学を広く伝えることも目的とします。

## 高分解能分子分光部会

代表: 遠藤泰樹(東大)

分子のスペクトルをその回転構造まで分離して観測する高分解能分子分光は、分子の詳細なエネルギー準位構造や分子構造に関し、他の実験手法では得られない貴重なデータを与えてくれます。このような高分解能分子分光に携わる研究者が研究成果を発表し、議論をする場として分子分光研究会を毎年定期的に開催してきましたが、この集まりをもとに発足したのが高分解能分子分光部会です。部会としての活動の中心は研究会の開催ですが、それ以外にも高分解能分子分光関連の様々な情報の交換、発信の主体としての活動も視野に入れていきます。

## 高感度表面・界面分光部会

代表: 二又政之(埼玉大)

表面増強ラマン(SERS)、表面増強赤外、SFG、SHGなどをはじめとする高感度表面・界面分光法は、局所環境下の化学種の存在状態について詳しい情報を与えることから、幅広い関心を集めています。例えば、各種ビーム法により、均一で再現性の高いSERS増強度を与える金属ナノ構造の形成が進められており、医療分野での状態分析チップ等の実現が期待されます。本部会では、高感度表面・界面分光の手法と、それにより得られた結果の科学的理解と工学的利用のための議論の場を提供することを目的としています。

## 生細胞分光部会

代表: 藤井正明(東工大)

近年の分子分光光学の発展により、生きた細胞をあるがままにその場計測することが可能となってきました。蛍光蛋白質を用いた蛍光イメージングや、線形および非線形ラマン散乱によるラマンイメージング、超解像赤外イメージング等により生細胞の中にある分子をマッピング、そして時間分解するなど時空間情報を高い感度で取得する技術が確立されつつあります。本部会では、細胞と分光をキーワードとして分光光学を基板とする学際的な領域の立ち上げを目指して活動しています。

## 赤外・ラマン分光部会

代表: 橋本守(阪大)

赤外・ラマン分光は、物理学、化学、医学生物学、薬学、工業応用など広い分野で利用されています。このような広い分野に渡る研究者が集まり議論できる、分野横断的なコミュニティを提供したいと考え、新部会として設立を致しました。また各分野の専門家が様々な観点から赤外・ラマン分光の教育・普及活動も行っていきたいと考えています。

## 先端レーザー分光部会

代表: 田原太平(理研)

レーザー技術の発展とともに分光計測の時間分解能、エネルギー分解能、空間分解能は飛躍的に向上し、新しい分光計測技術が生まれています。また、その応用によって物質科学の新しい側面が次々と明らかになってきています。本部会は、レーザーを用いた先端的分光計測法を開発・駆使して物質科学の基礎研究(特に分子ダイナミクスの基礎研究)を行っている研究者がとどい議論する場を提供するとともに、その活動を通して次世代の研究者を育成することを目的としています。

## 近赤外分光部会

代表: 土川 覚(名大)

近赤外分光法は、優れた透過性を生かしたユニークな分光法として近年各方面から大きな期待を寄せられています。本部会は、振動分光学や電子分光学としての立場から本法の発展に貢献することを目指し、定性・定量分析手法としての基礎、装置や測定手法の開発および新規利活用分野の開拓に関する情報提供を推し進めていきます。

## テラヘルツ分光部会

代表: 味戸克裕(NTT)

テラヘルツ分光はその光源、検出技術が急速な進歩をとり、吸収・分散スペクトルを利用した生体分子の同定・イメージングや電子材料の物性評価、THz電磁波の高い透過性を利用した非破壊計測など各種応用が展開されつつあります。本専門部会は自由な議論と情報交換の場を提供することで、テラヘルツ分光に関する学術と技術の発展および若手の育成に寄与することを目的とします。